

◆新技術定着試験

シャコガイ類の養殖適地試験

本部駐在 與那嶺 盛次

1. 目的

羽地漁協のシャコガイ小割式養殖は、特区第62号で実施しているが、白いシルト状の汚泥で濁った状態が続き養殖中のシャコガイ類がほとんどへい死した。そこで、平成20年9月にシャコガイ小割式養殖の漁業権取得を予定している大宜味村塩屋地先においてヒレジャコの小割式養殖適地試験を実施した。

2. 材料及び方法

養殖適地試験は、羽地漁協藻類増養殖研究会(塩屋グループ)と行った。ヒレジャコ種苗は、平成19年8月23日県水産海洋研究センター石垣支所より1,000個譲り受けた。中間育成はセメントを底に敷いた養殖籠(約30cm×40cm)3個にヒレジャコ種苗を三等分して収容し、陸上水槽の流水飼育で実施した。

平成19年12月6日養殖ケージ(1m×2m)1基を塩屋地先に設置し、中間育成したヒレジャコ種苗を収容して試験を開始した。試験開始時と約3ヶ月後に50個体の殻長測定と生残数を計数した。

3. 結果及び考察

平成19年12月6日中間育成後に取り上げたヒレジャコ種苗の生残数は513個(生残率51.3%)で、平均殻長は21.8mmであった。中間育成の生残率や成長は良くなかった。

塩屋地先の養殖試験場所は、水深約2~3mで底質は若干サンゴレキのある砂地であったL字型の護岸に囲まれた岸から約50mの静穏な海域であった。そこに、写真①のように養殖ケージを鉄筋で海底に固定した後、ヒレジャコ種苗513個の付いた養殖籠3個を養殖ケ-

ジに収容し蓋をした。

平成20年3月13日、潜水観察を行った結果、養殖籠3籠の内1籠にアナアオサが繁茂していた(写真③)ので、船上に上げアナアオサを取り除いた。その他の養殖籠2籠はアナアオサはそれ程付着していなかったが、泥が溜まっていたため船上に上げ泥を取り除いた。養殖籠の側面に泥排出の穴を多目にあける必要があると思われる。アナアオサ等雑藻駆除のため、周辺から採集したシラヒゲウニ1個を養殖ケージに入れた。

上記の作業と平行して殻長測定及び生残数の計数を実施した。平均殻長は25.7mmで、生残数は324個(生残率63.2%)であった。成長や生残はあまり良くなかった。今後、飼育管理を徹底する必要がある。

4. 今後の課題

- (1) 継続試験による出荷サイズまでの飼育



①海底に設置した養殖ケージ



② 養殖ケージに収容した養殖籠



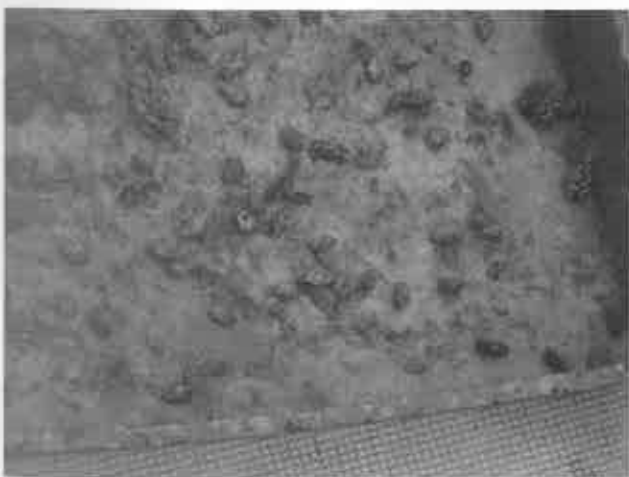
③ アナアオサが繁茂した養殖籠



④ アナアオサが繁茂していない養殖籠



⑤ アナアオサを取り除いた養殖籠



⑥ 泥を泥取り除いた養殖籠



⑦ 雑藻駆除のために入れたシラヒゲウニ